



小笠原村立小笠原中学校

学校だより

令和3年1月8日 第9号

小笠原村立小笠原中学校

校長 小野満 賢

学校ホームページ

<http://www.ogachu.que.ne.jp/>



学校フェイスブック

<https://www.facebook.com/ogasawara.jhs>



しなやかさを高める

校長 小野満 賢

JAXA（宇宙航空研究開発機構）の野口聡一さんら4人の宇宙飛行士を乗せた民間の宇宙船クルードラゴン初号機が、昨年11月16日に打ち上げられ、翌日、国際宇宙センターへのドッキングに成功しました。半年間にわたり、将来の宇宙空間への滞在を想定した燃焼実験や、iPS細胞を利用した生命科学実験などを行うのだそうです。野口さんは実に3度目の宇宙船搭乗になります。

この宇宙船は、コロナ禍にめげず、地球の皆が協力して日常を回復しよう、元の生活を取り戻そう、といった願いを託し、「レジリエンス」と名付けられました。レジリエンスとは、もともと外力のストレスを跳ね返す力という意味で、物理学で使われていた言葉だったのですが、近年は心理学的な用語として取り上げられることが多くなりました。日本語では「復元力」と訳され、外的な衝撃にも折れることなく、柔軟に受け止めて立ち直ることのできる「しなやかさ」のことをいうのだそうです。

昨年は目に見えない未知の脅威のために、世界中が困難を極めました。この未曾有の事態は広範囲にそして深くまで影響し、被害は計り知れません。新しい年が始まりましたが、未だに終息する兆しはなく、1月7日には一都三県で緊急事態宣言が発出され、厳しい我慢の日々が続きます。

しかし人間はきっと立ち直ります。今までもそうであったように、時間はかかるかもしれませんが、この事態から多くを学び、対処する力を得て立ち上がり、いずれまた前に歩み始めるのだらうと思います。昨年末にはまずイギリス・アメリカでワクチン接種が始まりました。おそらく各国で認可が下り、世界中に広がっていくのでしょう。治療薬の開発も着々と進められており、より効果の高い薬が実用化されていくのだらうと思います。今までの様々な努力や研究の成果を結集し、この病の克服に向けて世界が前に進み始めていることは間違いないでしょう。止まない雨はありません。きっとこの病が完全に制御できる日が来ることを信じて、最前線で働いている方々、生活を支えてくださっている方々に感謝しながら、まずは自分たちができる身の回りのことをしっかりとやっていくことが大切です。

先の「レジリエンス」は、誰もがもっていて、しかも高めていくことができるといいます。今の生きにくくストレスフルな社会においては、このレジリエンスを高めていくことが重要であると盛んに言われています。「しなやかさ」が増せば、どんなに強烈なプレッシャーやストレスがあっても、柔軟かく吸収し、心折れずに跳ね返すことができる、それが最大の強靱さだというわけです。これは、決して倒れない強さではなく、倒れてもまた起き上がることのできる強さです。

もちろん個人差もありますし、昨日今日で急に備わるものではないでしょう。今まで育ってきた環境も影響しているに違いありません。例えば「立ち直ること」は、失敗して挫折しないことには経験できないものです。自分の子育てを振り返ってみれば、子どもが判断する前に大人が決めてしまったり、子どもが失敗しないように先回りして障害物を取り除いたり、やってもどうせできないのだからとチャレンジすらさせなかったり、というようなことが往々にしてあったような気がします。

しかし今になってみれば、年齢に応じて自分の意志で判断し、挑戦させ、失敗や成功の体験をたくさん積み重ねることが大事であることが分かります。成功したときにはその結果だけではなく、その努力の過程を褒めること、失敗したときにはその原因をよく考えさせ、再挑戦を促すこと。何とかなる、きっとできると声をかけ、背中を押してあげること。完璧にやり遂げるのではなく、最善を尽くすことの大切さを伝えること。そして何よりも大事なことは、人に助けを求めてもよいことを教えておくことです。困った時に、誰かに困っていると言えるように、反対に困っている誰かを助けることもできるように、自分の考えを相手にしっかりと伝えたり、相手の考えをきちんと受け止めたりできるコミュニケーション力を身に付け、磨いておくことが大切だと思うのです。

予測不能の未来はこれからも続きます。子どもたちの心が簡単に折れないように、しなやかさをいっそう高めていきたいと考えています。

新型コロナウイルス感染症の新規感染者の急増により緊急事態宣言が発出されましたが、学校においても、百人一首大会、学校公開・作品展示、1・2年総合発表会の日程を変更します。詳細は追って連絡します。

第2学年 職場体験学習

第2学年担当 野内 由紀子

11月30日（月）から12月2日（水）の3日間、2年生では総合的な学習の時間において職場体験学習を行いました。キャリア教育の一環として、1年生の学習では「働く人の話を聞く会」を実施し、今年度は履歴書の作成や事前訪問など職場体験に向けて準備を進めてきました。

3日間の体験を通して、挨拶や言葉遣いなど、普段の学校生活で大切にしていることが社会に出てからも大切なことであると気付くことができたのではないのでしょうか。また、働くことの楽しさや大変さを学ぶことができたと思います。ご協力いただいた事業所の皆様には大変お世話になりました。今年も小笠原中の職場体験を支えていただき、ありがとうございました。

【ご協力いただいた事業所の皆様】（五十音順 敬称略）

アイランド・デリ、INN こうもり亭、小笠原海洋センター、小笠原整備工場、
小笠原ダイビングセンター、小笠原村立父島保育園、小笠原レオニド株式会社（国立天文台）、
小笠原村社会福祉協議会ちびっこクラブ、海上自衛隊父島基地分遣隊、トマトン、
ハートロックヴィレッジ、パームスヘア 81、ホテルビーチコマ、ローカルベーカーリー



第3学年 総合発表会

「完」

第3学年担任 麻生 直人

今回の3年生の総合発表会は、構成から本番まで全てにおいて実行委員会を中心とした生徒たちが創り上げました。プレゼンテーションのスライドの完成度、堂々と発表する姿、構成の工夫、3年生になってからの個人の成長やクラスとしての成長を改めて感じました。保護者・地域の皆様にも、今までの総合的な学習の時間の集大成となった今回の発表で、3年間の学習の積み重ねをお見せできたのではないかと感じています。

修学旅行に行くことができたことも含め、たくさんの方の支えがあったからこそ今回の発表ができました。皆様のご理解とご協力に改めて感謝申し上げます。



音楽発表会

音楽科 佐々木 若葉

12月19日（土）に音楽発表会を行いました。今年は新型コロナウイルス感染症の影響により演奏指導が難しく、本校も吹奏楽と歌唱練習を昨年度より遅く開始しました。2学期からはマスク着用の合唱練習を始め、練習場所の間隔にも配慮しながら進めてきました。全国で演奏会やコンクールが軒並み中止となるなか、地域・保護者の皆様、教育委員会の方をはじめ、多くの皆様のご配慮やご理解をいただき、予定どおり当日を迎えられたことに感謝を申し上げたい思いでいっぱいです。制約がある中でも生徒たちは精一杯準備をし、クラスのため、全校のため、1人1人が努力して演奏しました。新型コロナウイルス感染症を心配しながら練習することも、上手くいくか不安を抱えながらステージに上ったことも、生徒にとってはこれまで以上に大変な演奏会だったと思います。今年は人と一緒に演奏する音が消え、世界中の深刻な状況から、子どもも大人もつらい時間を経験しました。生徒にはこの音楽会を通して、仲間と一緒に演奏する喜びを感じてもらえたら嬉しく思います。保護者の皆様には練習時から生徒たちを支えていただき、当日も温かい拍手と応援の励ましをたくさんいただきました。本当にありがとうございました。



父母生徒会交流

生徒会担当 山浦 康志



12月16日(水)に父母生徒会交流が行われました。この交流は年に2回、小笠原中学校と母島中学校の生徒会役員がTV会議システムを用いて、お互いの生徒会活動の報告をするとともに、交流を深める会となっています。1学期に続き今年度2回目となりましたが、新しい生徒会役員としては初めてで、新鮮な雰囲気の中で進みました。初めのうちはお互いに緊張して、用意した原稿を一生懸命に読んでいましたが、会が進むとともに和やかな雰囲気になり、お互いに気軽に質問し合い、丁寧に答えていました。30分ほどではありましたが、同じ村の中学校の取組を聞き、良い刺激を受けることができました。

ゲストティーチャー・外部講師による学習活動

アナフィラキシーショック講習会

第1学年主任 湯本 美樹

12月1日(火)にNPO法人JAEA(日本災害救護推進協議会)の石津猛さんを講師に迎え、1年生を対象にアナフィラキシーショック講習会を行いました。実際にアナフィラキシーショックが目の前で起こった時を想定し、エピペントレーナーを使った訓練を行ったり、心臓突然死について学んだり、命の大切さを考える時間となりました。



テニス教室

テニス部顧問 山浦 康志

12月5日(土)にプロテニス選手の右近憲三さんと黒田祐加さんによるテニス教室がありました。中学校からはテニス部7名を含む9名が参加しました。天候が心配されましたが、無事に奥村テニスコートで実施することができました。身体の使い方や考え方など、個々の生徒の力に応じて指導していただき、参加した生徒全員が楽しみながらみるみる成長していました。後半は雨が降ってしまい練習が中断となりましたが、とても充実した時間となりました。

ピアノ音楽鑑賞会

音楽科担当 佐々木 若葉

12月7日(月)に文化庁令和2年度文化芸術による子供育成総合事業(芸術家の派遣事業)によるピアノ音楽鑑賞会を実施しました。小笠原小学校に在籍していた阿部大樹さん(ピアニスト)と、小笠原古謡歌手のo k e iさんとも一緒に演奏されている広田勇樹さん(チェリスト)によるデュエットを5曲鑑賞しました。体育館に美しい音色が響き、生徒たちは引き込まれながら鑑賞していました。小笠原で過ごした経験やピアニストを志したお話も伺い、「何事も諦めずには是非続けてチャレンジしてほしい」というメッセージをいただきました。



令和2年度 学校評価

副校長 坂本 司

さらなる教育活動の充実を目指し、保護者の皆様による「学校評価アンケート」を今年度も実施いたしました。お忙しい中、ご協力いただきありがとうございます。下記に数値の結果をご報告いたします。

ご意見もお寄せいただきました。新型コロナウイルス感染拡大防止には、今後も引き続き細心の注意を払っていきます。学力向上も重点課題の一つとして、継続して取り組んでいきます。なお、小学校の算数と同様の数学の少人数学級編制での授業については、東京都教育委員会に引き続き要望してまいりたいと考えています。また、学校行事の写真データの提供については、個人情報保護の観点から昨年度よりお渡しすることを控えておりますが、PTA学級委員の皆様とご相談させていただき、先日の3年総合発表会・音楽発表会から各学年の代表者の方に撮影・回覧をしていただくことになりました。改めて保護者の皆様のご理解とご協力に感謝申し上げます。

3月の保護者会で、改めてご報告させていただく予定です。

A：そう思う
B：どちらかといえばそう思う
C：どちらかといえばそう思わない
D：そう思わない
E：答えられない、わからない

	質問内容	A	B	C	D	E	
1	学校だよりや保護者会等を通じて、学校や学級の方針をわかりやすく伝えている	59	38	3	0	0	
2	学校だよりや学級だよりを通じて、学校や生徒の様子等、いろいろな情報を発信している	50	42	6	0	2	
3	保護者会や面談等、保護者の方に来校していただく機会は、適切な時期・内容で設定されている	50	45	5	0	0	
4	教員は教科指導や生活指導等、教育活動全般に熱心に取り組んでいる	54	38	3	0	5	
5	教員は、生徒が授業内容を理解できるよう、指導方法や教材研究等、授業改善に取り組んでいる	36	50	3	0	11	
6	学習指導全般において、基礎・基本の定着に努めている	32	50	5	0	14	
7	生徒が主体的に学び、考えられるよう、授業を工夫している	26	47	8	0	20	
8	1年間の学習をまとめた学習ファイル（通知表、学習の手引き、定期考査計画結果等）は効果的である	48	39	5	0	8	
9	生徒の学習状況や成果（評価）を、通知表や定期考査結果等を通し、適切に伝えている	55	39	2	0	5	
10	英会話能力を高めるために、ネイティブイングリッシュティーチャーによる授業など、授業を工夫している	48	38	2	0	12	
11	総合的な学習の時間等で小笠原の特徴を生かし、地域と連携した活動が進められている	47	36	8	0	9	
12	生徒の道徳性が高めるために、全教員で道徳授業に取り組むなど、授業を工夫している。	32	41	2	0	26	
13	授業の中で、情報教育（情報モラル教育・操作指導・情報の取捨選択等）を進めている	29	44	3	2	23	
14	日頃から日常生活のマナーや社会のルールについての指導が行われている	52	33	2	0	14	
15	防災や防犯、交通安全などの安全指導が、避難訓練などを通じて適切に行われている	43	45	3	0	9	
16	生活指導上の諸問題（いじめ等を含む）に対して適切な指導が行われている	30	45	2	2	21	
17	生徒の自主性や主体性を養うために、学校行事や生徒会活動や部活動に学校は取り組んでいる	42	38	8	0	12	
18	学校施設は整備され、教育環境が整っている	30	56	6	0	8	
19	教職員は保護者に丁寧に対応し、いつでも相談できる雰囲気がある	68	26	0	0	6	
20	学校ホームページを活用している（見たことがある）	17	32	42	8	2	
21	学校 Facebook を活用している（見たことがある）	27	24	23	20	6	

（表の数値は％です）